

【平成17年度専修学校社会人キャリアアップ教育推進事業】

事業名	医療機関における実務マネジメント人材を育成するプログラムの開発と実証		
学校法人名	学校法人中央情報学園		
学校名	中央情報専門学校		
代表者	理事長 岡本 比呂志	担当者・連絡先	溝上太平 電話番号 048(474)6651 E-mail Mizogami@ccmc.ac.jp

＜事業の概要＞

医療機関をマネジメントできる人材(以下「医療マネジメント人材」という)を育成するために、医療機関に対するヒアリング調査を行うことによってその人材像を明らかにした。また医療マネジメント人材育成の現状を知る目的で、大学や大学院における医療経営系の学部や研究科、民間企業・団体等が開催する教育プログラムの実態を調査した。

これらの調査の結果も踏まえながら、医療機関の経営に必要なスキルを網羅し、医療マネジメント人材にとって指針となるスキル標準を策定し、これに基づいて社会人を対象にした約300時間のカリキュラムを構築した。

最終的に、構築したカリキュラムおよびその前提となるスキル標準の妥当性を検証する目的で、コア教材を開発しその教材を使用した実証実験を実施した(事業全体の流れは図1を参照)。

＜成果＞

●諸調査

まず、医療マネジメント人材として従来の事務長像とは異なる戦略的意思決定が可能なスタッフ像を明らかにし、そこで必要となるスキルを明らかにすることができた。

また、既存の教育プログラムを調査した結果、社会及び医療業界のニーズに合った医療マネジメント人材を育成するための体系的なカリキュラムはまだ存在しないことを確認した。

●スキル標準策定及びカリキュラム構築

調査結果を受けて、医療マネジメント人材のスキル標準体系を策定した(図2)。

そのスキル標準に沿って医療マネジメント人材を育成するカリキュラムを検討した結果、300時間強のカリキュラムを構築することができた(図3)。

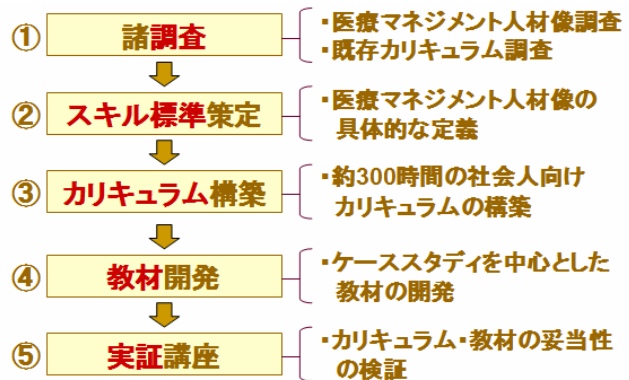


図1 事業全体の流れ

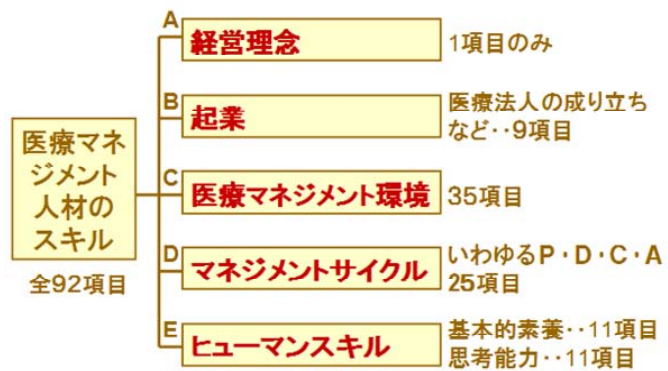


図2 スキル標準の体系

■ I～IV期に分けて、トータル320h

分野	I期	II期	III期	IV期
(調整科目) 2科目から1科目選択	1科目 20h			
経営理念・起業	1科目 20h			インター ンシップ
医療マネジメント環境	1科目 20h	1科目 20h		80h
マネジメントサイクル		2科目 40h	4科目 80h	
ヒューマンスキル	1科目 20h	1科目 20h		

図3 カリキュラムの概要

## ●教材開発

カリキュラムのコアとなる会計分野で使用するケーススタディ教材を中心に開発し、この教材を実際に使用することによって構築したカリキュラムや開発した教材の有効性を確認できた。

教材	使用する局面（期「科目名」）	主な内容
貸借対照表と損益計算書	Ⅱ期「医療機関の経営管理Ⅰ」	財務諸表の作成概要、医療機関の貸借対照表と損益計算書の構造
財務諸表分析	Ⅲ期「医療機関の経営戦略と計画」	経営分析と財務諸表分析、収益性の分析、安全性の分析、財務諸表分析演習
病院固有の経営分析	Ⅲ期「医療機関の経営戦略と計画」	考え方、病院の財務諸表の実際、様々な角度からの病院経営分析など
ケーススタディ教材	Ⅲ期「医療機関の経営戦略と計画・ケーススタディ」	A病院～C病院の3期分の貸借対照表と損益計算書を示して課題を与えたもの

図4 開発した教材

## ●実証講座

想定している受講者に近い被験者を対象にして、下記の要領で講座を実施し、内容・レベル・進捗などについて検証した。

- 日時 平成18年2月21日（火）10:00～17:00
- 被験者 病院の現役事務従事者 11名、医療系専門学校の関係者6名 計17名
- 要領
  - ・約1週間前に諸注意と教材を渡し、事前に予習をしてもらう
  - ・当日は、「貸借対照表と損益計算書」、「財務諸表分析」、「病院固有の経営分析」の順に講義⇒ケーススタディ（グループ学習）



写真1 講義に聞き入る受講者



写真2 グループ学習の様子

講座の実施によって得られたデータは様々であるが、実証講座全体としての役立ちについてたずねた項目を代表として示すと、その結果は図5の通りであった。（単位は人）

### ●まとめ

- ・医療マネジメント人材像として従来の事務長像とは異なる戦略的意思決定が可能なスタッフ像を明らかにできた。
- ・医療マネジメント人材として必要なスキルを明らかにできた。
- ・医療マネジメント人材を育成する系統だったカリキュラムはまだ存在しないことを確かめることができた。
- ・医療マネジメント人材のスキル標準を策定できた。
- ・医療マネジメント人材を育成する300時間強のカリキュラムを構築できた。
- ・カリキュラムのコアとなる会計分野で使用するケース教材を中心としたコア教材を開発できた。
- ・構築したカリキュラムや開発した教材の有効性を確認できた。
- ・今後の課題としては、スキル標準やカリキュラムの精緻化を図り、実際の運用に結びつける可能性を高めることを挙げることができる。

		全体
病院関係者	大いに役立つ	5
	まあまあ役立つ	6
	役立つと感じない	0
	その他	0
専門学校関係者	大いに役立つ	4
	まあまあ役立つ	2
	役立つと感じない	0
	その他	0
全体	大いに役立つ	9
	まあまあ役立つ	8
	役立つと感じない	0
	その他	0

図5 アンケートの結果